



作例①

# SDGs (持続可能な)

## 庭作りのご提案

世間では今日、サステナブル(持続可能)と喧しい。今号では、リユース(再生可能)という一面で、四つの例を、取り上げてみた。最も作庭では昔から、遊び心を生かした構築物は多く作られており、庭師の見せ所でもある。

一例目は、風倒木の枝折り戸と伐採した大木のウロをそのまま生かし、ポストとした例です。枝折り戸の柱の曲がりと枠の曲りを合わせる材料の選択が絶妙で山居の佇まいのこの庭には、ぴったりの趣である。



(有)林庭園設計事務所  
〒193-0823 東京都八王子市横川町991-6  
TEL:042-622-8840

再刊 VOL.2



作例②

二例目は、壊れていたブロック塀を解体せずに、むしろ解体した家の和瓦を再利用、塀の上から貼った作例です。今や瓦を集めることが難しく、ブロックでは出せない味と趣を演出できた。これこそ究極のリユースと自負するものです。  
三例目は、灯籠の笠と宝珠(頭)を使った作例です。いわゆる造園家で云うところの「はぐれ物」で、普通は処分されるものですが、これを逆手に取り、現代彫刻を想わせるオブジェとして、この破調が庭の個性を一段と演出している。この宝珠には、横に刻みが施して有り、しかも噴水の如く水の吹き出し口となっている。初夏の夕暮れには、水の揺らぎと水の煌めきは一片の涼やかさと美しさは一寸筆舌では表せない。



作例④



作例③

四例目は、皆さんでも取り組み簡単に出て来るものを提案してみました。割れてしまった、飛石として使った板石を廃棄せず、割れに合わせて、いわゆる「洗い出し」の方法で小石を混ぜモルタルで継ぎ、小石の部分のスポンジなどで拭き取って再び生かした作例です。遊び心のある庭のこんな意匠は、住人のゆとりを感じさせます。

笠は上下を逆に使い、宝珠を優しく受け煌めきをより強調している。



ヴィーナスの誕生の絵の一部

では、ヨーロッパでは、どうかというと、あの有名なウォテイチェリ・のヴィーナスの誕生の絵には、クロリスという春の野の花の神を、小脇に抱き、頬を膨らませて描かれている。このゼフィロスは、ギリシャ神話では、西風の神とある。  
日本とヨーロッパでは、正に字の如く東西、真反対である。  
もともと、立春から春分の日までの間、一寸強めに吹く南風を春一番と言っているのですが。  
菅原道真は、梅の花を春の花の代表としている、皆様は、春はやっぱり桜でしょうか...



春の訪れを風で感ずることは、東西に特に芸術に於いて、大きな差があるようだ。大宰府に流された菅原道真が歌った、「東風(こち)吹かば匂いおこせよ梅の花 主なしとて春なわすれそ」と日本では東風が春を告げる風であるらしい。